

巻頭言

新連盟副会長

この度、鹿児島県理学療法士連盟の副会長という大役を村山会長のもとで務めさせていただくことになりました岩森俊です。（青年局長との兼務となります。）坂本前副会長からバトンを受けましたが、その責任の重さに身の引き締まる思いが致します。会員の皆様方のご支援ご協力をいただきながら職責を全うする覚悟ですので宜しくお願い申し上げます。

昨今、国民の皆様は理学療法という言葉や大凡の内容、必要性は浸透しましたが、私たち理学療法士が担えることはまだまだ幅広く、そのポテンシャルについては認知されているとは言い難い状況です。それは私たちの今後の職域や待遇面にも直結いたします。私自身、臨床の現場で20年以上勤務しておりますが、私たち理学療法士の持つスキルというものは医療介護分野にとどまらず様々な場面、ライフステージで国民に利する職種であることは間違いなく思っております。それを活かすために、協会と連盟の両輪による学術・政治活動の強化が必要であり、私たち連盟は法制度を作る場への発信力と政治力を高めていきたいと考えます。

「自分たちの未来は自分たちで」これは日本理学療法士連盟のキャッチコピーであります。昨年、青年局長の立場から、各地区に青年代のリーダーを配置する提案をいたしました。これは各地区の先生方とのネットワークに加え、世代別のネットワークを網の目上に張り巡らすことで、多くの会員の声をキャッチするとともに、青年代の連盟活動への参加を促進する目的があります。ご賛同いただける方々と、強く、早く、新しい動きを展開していきたいと思っておりますので、その際は、是非とも ご検討いただけたら幸いです。

今後とも、鹿児島県理学療法士連盟の活動に対し、何卒ご理解とご協力いただきますようお願い申し上げます。



鹿児島県理学療法士連盟 副会長 岩森俊（いわもりしゅん） 勤務先 介護老人保健施設 グレースホーム リハビリ部長

シリーズ 政治とは何か？ 選挙について考える

2021年4月発行の広報紙の中でも「The ballot is stronger than the bullet.」という名言を紹介しました。平成27年6月、公職選挙法等の一部を改正する法律が成立し、公布されました。これに伴い、平成28年6月19日の後に初めて行われる国政選挙の公示日以後にその期日を公示又は告示される選挙から、選挙権年齢が「満20歳以上」から「満18歳以上」に引き下げられました。「選挙は20歳から」というのは昔話になってしまいました。

それでは、海外の選挙権年齢はどのようになっているのでしょうか。

現在海外では「18歳以上」が多いようです。国立国会図書館の調査（平成26年）では世界の191の国・地域のうち、9割近くが日本の衆議院に当たる下院の選挙権年齢を「18歳以上」と定めています。例えば、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリアでも18歳以上となっております。選挙権年齢の引下げによって、ますます若い世代が政治に関心をもち、積極的に政治に参加することが期待されています。

では、いよいよ告示される衆議院選挙について考えてみたいと思います。

少し歴史を遡ってみます。板垣退助。社会科の授業で必ず出てくる人物の一人です。板垣退助はそれまで官僚が行ってきた政治から、国民が選んだ議員によって政治を行うことを訴えました。これが「自由民権運動」ということとなります。

そして政府もこの運動に逆らうことが出来ず、国民が選んだ議員による「衆議院」と華族などで構成される「貴族院」という二院制で国会が開催され、国民は参政権を得たのです。現在でも「衆議院議員」を「代議士」と呼ぶのは「一般国民を代表して議論する」という立場を表したものです。したがって、「参議院議員」は貴族院の流れとなりますので、代議士とは呼ばず、「国会議員」と呼ぶ、そんな歴史があります。

現在の衆議院選挙についてまとめます。「小選挙区比例代表並立制」となります。小選挙区ですから、各選挙区から当選するのは一人、そして比例代表制は、政党の名前を投票用紙に記入し、政党ごとの得票率に応じて議席が分配される仕組みです。そして小選挙区に立候補した候補者が、比例代表制にも立候補することが出来ます。つまり、小選挙区で落選した候補者が、比例代表制で当選することもあり得るわけです。これを「復活当選」と呼んでいます。その当選の仕組みは小選挙区での惜敗率が関係しますが、ここでは省かせて頂きます。この復活当選には「小選挙区で選ばれなかった候補者が、比例代表で当選することは不自然だ」という意見もありますが、現在では特に改善されていません。

そして衆議院選挙の特徴の一つに4年という任期満了時に行われるだけでなく、議院が解散された時にも行われ、すべての議員を選び直します。このことから、総選挙という呼び方をします。参議院選挙では6年の任期で行われますが、その半数で改選されます。この点も二院制の違いと考えられるでしょう。

政治の主人公は我々一人一人になります。当然のことですが、選挙は国民が直接、政治家を選ぶ仕組みということです。これは日本国憲法の「国民主権」に基づいています。折角の権利です。この権利を使わないとは非常にもったいないですね。様々な考えがあっても当然ですが、「誰が（議員に）なっても一緒」という意見もあります。しかし、我々は選挙によって議員を選ぶことができます。もし、選んだ議員が期待していた通りの仕事をしなかった場合は次の選挙で投票しなければいいわけです。決して投票しないという行動はしないことが大切ではないでしょうか。鹿児島県理学療法士連盟会員だけでなく、鹿児島県理学療法士協会会員の「投票100%」を目指した活動をしていきたいものです。



9月12日10時よりふるさと対話集会を開催いたしました。25名の方にご参加頂きました。「障害者の生活と権利を守るかごしまの会」の皆様、「全国パーキンソン病友の会鹿児島支部の皆様」そしてリハビリテーション関連職の方々にご参加くださいました。

お忙しい中、みやじ拓馬衆議院議員、宝来良治鹿児島県議会議員、西洋介鹿児島市議会議員、そして小川かつみ参議院議員が参加者の要望に耳を傾けて頂きました。オンラインであったため、どのような対話集会になるか不安でしたが、ご参加の皆様からは切実な思いを率直に伝えて頂き、そしてご出席頂きました議員の皆様は真摯にその要望を受け止めて頂き、前向きに要望達成のために動いて頂くことをお約束くださいました。非常に内容のある対話集会であったと思います。

今後もすべての方が生きやすい社会の実現のために、このような機会を設けて参りたいと考えております。



シリーズ 覗いてみたい あの人の理学療法士的思考



今回は豊島病院 リハセンター長 福留史剛先生の理学療法士的思考を伺いました。どのような視点で業務に携わっていらっしゃるのでしょうか。では覗いてみましょう。

「この先生 (PT) すごいな・・・」。治療に行き詰まり先輩PTからの助言に対して「この先生のようにできるようにになりたい」と思っても今すぐその先生のような知識・経験を積むことはできず気ばかりあせってしまう・・・。

突然ですが、日頃の臨床の中で患者さんへの目標設定は妥当でしょうか？延々と同じプログラムを実施していませんか？当然ですが、設定した最終的な目標達成のためには細分化された道のりがあるはずで、3ヶ月で最終目標に達成すると仮定したのであれば、1ヶ月でここまで、そのためにまず1週間でここまで・・・というように短期間ごとの、より具体的で数値化できるような明確な目標設定 (と効果) を患者さんとともに共感していくことも必要であると思います。

効果の検証を短い期間で常に実践し、PTとして時には壁にぶつかりながら、明確な目標・プログラムを再設定するプロセスにより療法士としても能力 (経験) が蓄積されていくと思います。

「この先生」という長期的な例えば10年先の目標にむかって1年でここまで、2年で、3年で、5年で・・・というようなキャリアデザインをなんとなくではなく「超」具体的に立案し細分化された行動計画を組み立て具現化していく・・・。

『患者さんへの目標設定』『自分自身のキャリアデザイン』。対象は違いますがどちらも細分化された道のりを明確に考えていくことがやはり大事なことだと思うのです。



～リーダー塾特別企画～ 日本理学療法士連盟、鹿児島県理学療法士連盟 青年局コラボ研修会

令和3年第2回鹿児島県理学療法士リーダー塾

鹿児島県理学療法士連盟青年局では、各地区に青年代のリーダーを配置することを目指しております。現行の各地区の先生方とのネットワークに加え、世代別のネットワークを網の目状に張り巡らすことで、
①各世代からの多くの意見をキャッチする。
②青年代の連盟活動への参加の促進。
を目的としております。今回はそのキックオフ研修会として日本理学療法士連盟青年局長の岩崎武史氏を講師にお招きし、これまでの経験をもとにお話していただくことが実現しました。私たち青年代の現リーダーからのメッセージは貴重であり、参加者の背中を押すような、ターニングポイントとなるようなリーダー塾にできたらという想いで企画いたしました。多数のご参加、心よりお待ちしております。

【コンテンツ】

- ①県内各地区の青年代リーダー配置についての提案 (県PT連盟副会長兼青年局長: 岩森 俊 氏)
- ②講演 (日本理学療法士連盟 青年局長: 岩崎 武史 氏)
- ③質疑応答、意見交換

【講師紹介】 岩崎 武史 氏 (日本理学療法士連盟 青年局長)

2006年: 伊勢慶友病院
2007年: 伊勢慶友病院訪問リハ 2009年: 通所リハ 2013年: 回復期リハ病棟 立ち上げ
2015年: 日本理学療法士連盟 青年部 (三重県)
2015年: 三重県理学療法士協会 理事
2016年: 日本理学療法士協会 認定理学療法士取得 (臨床教育)
2018年: 日本理学療法士連盟 青年局長 (～現在2期目)

【講演タイトル】

地方の理学療法士が狭い視野を広げるために愚直にとりくんできたこと
～学術活動、社会活動、連盟活動を通じて～

【進行】 鹿児島県理学療法士連盟 青年副局長 福永 裕樹

【開催日時】 令和3年11月(土) 19:00～20:00

【開催方式】 WEB開催 (ZOOM)

【参加資格・参加費】 理学療法士協会員・無料

～申込方法～

以下のメールアドレスに必要事項を記入し申し込みください。
鹿児島県理学療法士連盟 青年局: 福永 kagoshima.ptrenmei@gmail.com
件名: 令和3年第2回鹿児島県理学療法士リーダー塾
必要事項: ①氏名 ②勤務先 ③PT会員番号
申込締切: 令和3年11月 日()までにお願いします。

主催: 鹿児島県理学療法士連盟 (公社) 鹿児島県理学療法士協会

研修会予告

期日はまだ未定ですが、日本理学療法士連盟とのコラボ研修会を開催する予定です。本県青年局は皆様に少しでも興味を持ってもらえるような活動を考えています。

詳細が分かり次第、ホームページ、SNS等で発信します。
乞うご期待！

皆様にお願ひがあります

2019年7月に養成校の学生の皆さんと現職者、そしてコーディネーターに小川かつみ先生を招いて「理学療法士 未来塾」を開催しました。その時に会場にあったホワイトボードに参加者の似顔絵を書いて盛り上げていただきました「火山灰で絵を書くアーティスト」の植村恭子さん。彼女が今回、火山灰アートで個展を開催しようと奮闘しています。資金をクラウドファンディングで集めています。

このような女性を応援したいと思う方は、Google等で「READYFOR」と検索して頂いて、サイト内のキーワード検索で「KYOCO」と入力し、検索すると、彼女がやりたいことの詳細とファンドの方法が記されます。3,000円から始められる支援。15日現在で目標80万円のうち70万円達成されています。もし、ご協力ができる方がいらっしゃいましたら応援をお願い致します。

